

ニューズレター 経済教育学会

2013. Dec. No.20

会長挨拶・・・1 春季研究集会の報告者の募集のご案内・・・2 2012年経済教育学会第29回全国大会報告・・・3
学会賞・・・4、HP案内・・・5 新刊紹介、訃報・・・6 理事会議事録・・・6 会費納入のお願い・・・8 編集後記・・・8

会長に水野勝之先生が選出されました。ご挨拶を掲載します。

【ご挨拶】

経済教育学会 会長 水野勝之

今期の会長をお引き受けさせていただきました水野と申します。今期は来年度が学会30周年に当たり、私のようなものが重責を担わせていただくこと、恐縮に感じております。

ここで、気の付いたことを3つほど書かせていただきます。

第1は、学会の情宣についてです。実は経済教育学会に入会して以来一会員としてたくさんの素朴な疑問がありました。そのうちの一つが「このように重要な学会なのになぜ会員数が減少していくのか」でした。一般会員として特に答えを求めることもなく長い間過ごして来ました。しかし、会長という立場では、見過ごしていくわけにはいかない事実です。

このところ会員の減少が続いています。平成24年度は、11人減の総数356人です。ひところは500名近くいた会員が減少してしまいました。経済教育学会の研究大会、研修会に出席してみると、報告内容は重要なものばかりです。ではなぜ減少するのか？ひとつ考えられるのは、学会の外に情報が伝わりにくくなっている点にあるように思えます。

大会、研修会、年報を通して研究の報告も大々的に行っています。ニューズレターも充実したものを作っています。今後は、学会の情報が会員だけでなく、より広くより多くの人たちに届き、学会の躍動感を伝えられたらとおもいます。きっとその方々が学会に関心を持ってくださるのではないのでしょうか。

第2は、国際交流についてです。これまで、本学会は韓国経済教育学会(Korea Economic Education Association:KEEA)との交流がありました。富山大学、京都橘大学、椙山女学園大学での大会などでは、韓国経済教育学会の会長、副会長、元会長の先生方が講演や研究報告をなさってくださいました。今回の第29回全国大会(滋賀大学)には、お二人の副会長がご参加くださいました。両国間に様々な課題がある今こそ、学問を通しての民間交流が重要であると考えます。韓国経済教育学会は来年創立20周年を迎えるそうです。30周年を迎える本会と、経済教育を通して、お互いの国の将来の人材の育成に協力しあえるのではないのでしょうか。それこそが2つの学会の相互へのお祝いのメッセージになると思います。

第3は、30周年記念にあたって、学会を振り返ると同時に将来の姿を思い描かなければならないことです。一会員として、前述の疑問以外にも、素朴な疑問がいくつもありました。「学会のHPはなぜあっさりしたものなのか」、恥ず



かしくてほかの人には聞けないような疑問の中にこそ実は重大な問題が隠されているかもしれません。会員の皆さんからそうした問題を掘り起し、少しずつ解決していけたらと考えています。それが、30年間学会を支えてくださった先達の皆様にも報いることではないかと考えています。

経済教育学会に少しでも貢献できればと思います。ご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

【今後の学会スケジュール】

2014年3月28日(金) 午後・経済教育学会春季研究集会(三重大学)

2014年9月20日(土) -21日(日) 第30回全国大会—記念大会—(立命館大学衣笠キャンパス(予定))

日本学術会議で作成が進められている経済学分野の参照基準(原案)に対して

理事会が意見表明を行い、水野会長がシンポジウムに参加しました。

日本学術会議では現在、経済学委員会が分科会において経済学分野の教育質保証にかかわる参照基準を検討しています。ここで検討されている、いわゆる「経済学分野の参照基準」は、経済教育を学問的に検討し、それぞれの教育段階に還元することを使命としている当学会にとって看過できないものです。そこで、当該「参照基準」(案)について、理事会で検討委員会を組織し、検討しました。その結果、委員会での議論を経て、理事会の承認のもとに、意見書を日本学術会議会長大西隆氏宛に、11月27日に郵送いたしました。意見書は、このニュース・レターに別紙として同封すると同時に、学会ホームページの下記URLにもpdf文書を公開しています(<http://ecoedu.jp/2013/11/post-9.html#000086>)。

日本学術会議では意見集約を行うと同時に議論を進めるようです。本文書が多くの会員の検討材料になり、意見表明に資することになれば幸甚です。

【2014年3月28日(金) 春季研究集会・拡大理事会のご案内と報告者の募集】

実行委員長 山根 栄次(三重大学教育学部)

経済教育学会 2014年春季研究集会・拡大理事会を以下の様に開催します。

この研究集会は、「日本の財政と税について生徒と学生にどのように学ばせるか」を研究テーマにいたします。山根が研究代表をした科学研究費「国の累積債務 1000兆円時代における税教育理論の構築とカリキュラム開発」の研究チームが研究発表を行います。このテーマに関連した研究発表をして下さる方を、2名募ります。

その後、このテーマでパネルディスカッションを行います。パネリストには、猪瀬武則氏(日本体育大学)、河原和之氏(元東大阪市中学校教諭、立命館大学講師)、佐野岳仁氏(津税務署税務広報広聴官)、松尾匡氏(立命館大学)、宮原悟氏(名古屋女子大学)に登壇して頂き、山根がコーディネーターを勤めます。

春季集会の4日後の2014年4月1日から消費税が8%に上がり、その後さらに10%に上がることが予定されていますが、この機会に、今回の研究テーマについて大いに議論したいと思います。こぞってご参加ください。

日時：2014年3月28日(金) 13時から17時30分(受付は12時から。その後、懇親会)

場所：三重大学・総合研究棟Ⅱ・1階・メディアホール(三重大学正門より徒歩2分)

〒514-8507 三重県津市栗間町屋町 1577

*津駅東口4番バス乗場より三重交通バスで「大学前」下車すぐ。(「大学病院」行のバスには乗らないでください。また、「大学病院前」バス停で降りないでください。)

連絡先：三重大学教育学部・山根栄次研究室

〒514-8507 三重県津市栗間町屋町 1577

《プログラム》

12 : 00 受付開始⇒13 : 00 研究発表⇒14 : 30⇒パネルディスカッション⇒16 : 00 拡大理事会
17 : 30 閉会 18 : 00 懇親会(大学内レストラン・パセオ)

《研究発表申込》締切 : 2014年2月14日(金) 必着

応募方法 : Eメール(添付ファイル)か郵送で発表題と発表要旨(400字程度)を上記連絡先にお送りください。氏名, 所属, 連絡先もお知らせください。

*発表時間の都合上, 2名を限度とし, 発表テーマも今回の集会研究テーマ「日本の財政と税について生徒と学生にどのように学ばせるか」に関連したものに限定します。応募者多数の場合には, 実行委員会で選定させていただきます。応募者には, 選定の結果を2月末日までにお知らせします。

《懇親会 参加申込》

- ・大学内レストラン・パセオにて。
- ・会費は, 5,000円とやや高め(?)ですが, 三重県の美味しい料理とお酒も用意します。
- ・開催時間 18 : 00 から 20 : 00 頃まで。終了後は「大学前」バス停より津駅方面行きバスに乗車できません。
- ・参加希望者は, 上記連絡先に, 3月20日(木)までにお申込ください。会費は当日, 現金にて頂きます。氏名, 所属, 連絡先をお知らせください。

【2013年経済教育学会第29回全国大会報告】

経済教育学会第29回全国大会実行委員長 加納 正雄(滋賀大学)

9月28日(土)、29日(日)に第29回経済教育学会全国大会が「いま経済を学ぶ意義」をテーマに滋賀大学教育学部で開催されました。

9月28日(土)は、午後からシンポジウムと総会と懇親会がおこなわれました。シンポジウム(13時20分より16時)は、「いま経済を学ぶ意義とは」をテーマにおこなわれました。最初に佐和隆光滋賀大学学長の基調講演があり、その後、佐和先生と岩田年浩会員、新井明会員、河原和之会員の4人でパネルディスカッションがおこなわれました。コーディネーターは山根栄次会員です。



佐和先生の基調講演は「経済学を学ぶということ」というタイトルで、アメリカと日本の経済教育の相違やポスト工業化社会の問題点などが取り上げられました。

続いて、中学校の教員の立場から河原会員が「中学生が経済を学ぶことの意味」と題して、高等学校の教員の立場から新井会員が「いま高校生に経済を教える意味」と題して、大学の教員の立場から岩田会員が「経済学を学ぶということ・・・私の視点」と題して、スピーチがおこなわれました。その後、山根会員の司会で、パネリストの議論とフロアーとの質疑応答がおこなわれました。時間が短く、フロアーからの質問を多く受け付けることがで

きななかったのが残念ですが、白熱した議論でした。





シンポジウムにつづいて、会員総会(16時10分～17時10分)があり、その後、懇親会(17時30分～19時30分)がおこなわれました。懇親会では、韓国の経済教育学会からの参加者の紹介などもあり、非常に和やかな雰囲気、会員の交流を深めることができました。

9月29日(日)は、6つの分科会で報告がおこなわれました。午前は、分科会1「高等学校の経済教育(1)」、分科会2「小中学校の経済教育」、分科会3「大学の経済教育(1)」、午後からは、分科会4「高等学校の経済教育(2)」、分科会5「経済学と経済教育」、分科会6「大学の経済教育(2)」です。11件が大学の経済教育をテーマにしたもので、9件が大学以前の経済教育をテーマにした報告でした。それぞれの分科会で熱心な議論がおこなわれました。

両日ともにトラブルもなく、スケジュールにしたがって無事に大会をおこなうことができました。大会関係者と大会に参加された方々にお礼を申し上げます。

両日ともにトラブルもなく、スケジュールにしたがって無事に大会をおこなうことができました。大会関係者と大会に参加された方々にお礼を申し上げます。

【第1回経済教育学会賞 選考の結果と全体講評(概要)】

第1回経済教育学会賞選考委員会 選考委員長 宇佐見義尚

経済教育学会賞選考委員会において、第1回授賞候補者を、厳正、公正、中立、且つ慎重な審議を経て決定し、2013年9月28日の理事会に対して、下記の通りに推薦いたしました。

経済教育学会賞(教育実践部門) 水野勝之氏「地域連携による経済教育」

授賞理由 第1に、教育実践にオリジナリティがある。大学内にベンチャー企業、NPO法人を立ち上げ、それらの活動を通じた教育実践を行うという新しい教育モデルを開発した。第2に、教育実践に継続性がある。ベンチャー企業、NPO法人による事業活動が継続して活発に行われている。第3に、教育実践に公開性がある。教育実践が、学会、出版、メディアに対して公開されている。第4に、教育実践として顕著な効果、成果が認められる。それぞれの論考の中に、自己評価がまとめられ、学会、研究会における報告を通じた批判を受けている。総じて、大学の既存のカリキュラムの範囲を超えつつ、大学、地域との連携・協



力において制度的・財政的裏付けをとまなう配慮を一貫して行っており、大学の教員が学生参画・参加型の教育活動を行う上で先駆的業績であると評価した。

経済教育学会賞(教育実践部門) 水野英雄氏「アクティブラーニングを用いた教員養成における経済教育の実践」

授賞理由 第1に、経済教育学会発足以来の課題である「教育方法」の改善に取り組んでいる。アクティブラーニングは、大学教育での全国的な課題である。推

薦書にある「貿易ゲーム」は、「体験」から省察、概念形成に至る中等教育に頻用される教材であるが、大学教育でより精緻に取り組んだ。第2に、学生指導の具体的成果（「第7回日銀グランプリ」優秀賞を受賞）である。第3に、ESD（持続可能な開発に関する教育）のフェスティバル、金融広報中央委員会などと協働したセミナーや講演を企画・発信している。「科研」報告としての社会還元プログラム「ひらめきときめきサイエンス」にも応募し、社会に向けて発信している。以上、大学におけるアクティブラーニングの実践と教育指導、教育企画を優れた教育実践として評価した。

経済教育学会賞（研究部門）	授賞該当者無し
経済教育学会奨励賞	授賞該当者無し
経済教育学会特別賞	授賞該当者無し
経済教育学会功労賞	推薦者無し

尚、公募は経済教育学会賞規程（2011年10月1日総会承認、2012年度施行）に基づき、第1回経済教育学会賞推薦受付を2012年12月10日発行のニューズレター第18号誌面、及び学会ホームページ上に告知した。応募は、研究部門に3件、教育実践部門に2件、奨励賞に1件、特別賞に1件があった。経済教育学会功労賞への推薦はなかった。

【授業紹介のホームページでの発信について】

会員の皆さんの授業を学会のホームページでどんどん紹介して行きたいと思います。皆さんの努力がたくさんあると思います。全国大会や春季研修会があるといっても、そこですべてを報告できるわけではありません。学会のホームページで、授業、教育上の工夫などを載せていきます。皆さんの授業へのリンクや授業紹介のご寄稿などがありましたらどしどしお寄せください。

ホームページ担当理事 井草剛 宛 (go1935@yahoo.co.jp)

韓国で日米韓の経済学教育にかんする国際学会が開かれました

2013年12月12日-13日に韓国で日米韓の経済教育に関する国際会議が開かれました。2013 International Conference on Promoting School Economic Education in Korea, Japan and the U.S.A. (Main Conference Hall & Conference Room in Annex, KDI)。経済教育学会からは岩田年浩会員（京都経済短期大学）が、The Gaps between Teachers and Pupils at Economic Thinking というテーマで、また、山根栄次会員（三重大学）が Trends and Conditions in School Economic Education in Japan というテーマでそれぞれ報告されると同時に、その他のテーマでは討論者としても参加されます。こうした機会を通して、当学会と韓国の学会の交流が促進されていくことが期待されます。

【新刊紹介】（会員による新刊を紹介します）

＜『ミクロ経済学入門 新版』（吉田良生編著、角本伸晃、青木芳将、久下沼仁筈、水野英雄、成文堂、2014年、1700円＋税）＞

本書はミクロ経済学の基礎を分かりやすく解説した教科書である。家庭内での問題から政治的なテーマ、さらには外交問題まで、世の中のあらゆる問題が経済問題であり、経済を正しく見る眼を養うことは重要な課題である。特に、厳しい経済状況が続く中では、正しい経済認識に基づいた判断能力が求められる。そのため、経済学の理論に基づいた分析能力の育成が必要である。しかし、このような重要な分野である経済学の理論は高等学校までは学習していない。また、独特の専門用語が多いことと、数式を用いることで、初学者である学生には戸惑いの多い分野である。

本書は大学1・2年生を対象に、出来るだけ平易な言葉でわかり易さを追求して書かれた入門書である。

経済理論は難しいという先入観があり、また、その有用性についても理解できていないことから、授業では学生に関心を高めさせるための創意工夫が必要である。そのため本書では、まずは学生に経済を身近な問題として興味関心を持てるように、説明には日常生活に関連した身近な事例を用いることを心掛けている。また、グラフによる説明や数式の展開なども、なるべく丁寧に説明するように努めている。

1・2年生の入門的なミクロ経済学の授業（15回）での使用に適した、わかりやすい教科書となっている。

【訃報 長谷川義和先生（大月短期大学）】

平成24年度春季研修集会の実行委員長であり、理事さらに学会誌編集委員長として学会の発展に多大な貢献をされました大月短期大学の長谷川義和先生が、薬石効なく、10月に永眠されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。学会では故人の功績を振り返り、人柄を偲ぶため、学会誌に追悼記事などを掲載することを検討しています。

【2013年度 理事会議事録】

理事会議事録

日時：2013年9月28日（土）10時30分～12時55分
場所：滋賀大学教育学部 研究棟2F

出席者（50音順）：猪瀬武則、岩田年浩、大坂洋、加納正雄、田中淳、中里弘穂、中谷武雄、新里泰孝、橋本勝、藤岡惇、松本朗、水野勝之、山根栄次（13名）

委任状：5

出席者、委任状総数が理事総数（33名）の過半数を超え、成立。

*全国大会準備のため、実行委員の理事は途中退席または一時退席

*議事に先立ち、議長として中谷武雄氏を選び、議事録作成に松本朗氏を指名した。

I 審議事項

1. 2012年度会務報告

大坂事務局長より、2012年度の会務報告があり、了承された。なお、会費の二重請求をめぐる経緯と課題についても説明があり、了承された。

2. 2012年度決算案及び監査報告について

大坂事務局長より説明があり、その内容と監査報告については了承された。なお、総会提出の決算の報告について一部誤記を修正の上、審議にかけることを了承した。

3. 2013年度予算案について

2013年度決算に併せて、2012年度予算案について提案がなされ、原案通り承認された。審議の中で、2013年度以降事務委託業者の変更等に伴う、経常収支の悪化について対策を検討するよう提案があり、今後の重要な課題として取り上げることが了承された。

4. 学会賞受賞者の決定について

宇佐見委員長より「経済教育学会賞選考委員会」からの詳細な報告があり、水野勝之会員（明治大学）および水野英雄会員（相山女学園大学）の二名に教育実践部門の学会賞を贈ること、研究部門、奨励賞研究部門、特別賞部門には該当者がいないことを了承した。なお、理事が学会賞候補者となっていたため、今回の審議では当該理事の退席を求め、審議を行った。

5. 2013年度学会誌について

田中学会誌担当理事より会誌32号の編集に関わる説明があり、了承された。また、次号33号の編集に入ること、30周年記念号は34号になることもあわせて報告され、了承された。次に、来年度の編集委員を猪瀬理事、高橋理事、田中理事、八木理事とすること、円滑なひきつぎのため、浅野会員に当面協力していただくことが了承された。学会誌の費用について出版社の相見積もりの工夫などでさらに削減する努力を求める意見が出た。

6. 第30回全国大会について

立命館大学で行うことが確認された。

7. 春季研究集会について

山根会員より、2014年3月28日（金）に三重大学で行う春季研究集会のプログラム内容の概要が報告され、了承された。なお、自由論題報告は今回見合わせることにした。II 報告事項

1. 会費徴収状況

大坂事務局長から、2013年9月19日現在の会費納入状況について報告があり、納入率を上げる必要が提起された。くわえて、従来の9月頃に変えて、年度の終わりの納入状況を報告すべきとの意見があった。また、会則第4条の「5年以上滞納者、3年以上の滞納者に対

する措置」を実行することを確認した。

2. 会員異動について

大坂事務局長から、昨年度より 2013 年 9 月 19 日までの会員異動について報告された。入会者は 10 名、退会者は 21 名という実績であった。理事会資料には、入会者氏名のみで、退会者氏名が掲載されなかったが、次号ニューズレターには、従来どおり、療法を掲載することとした。

経済教育学会総会議事録

日時 2013 年 9 月 28 日(土)16 時 10 分から 17 時 10 分
場所 滋賀大学教育学部中講義室

*議長に横田数弘会員を選出した。

I. 審議事項

1. 2012 年度会務報告

大坂事務局長より、2012 年度の会務報告があり、了承された。なお、会費の二重請求をめぐる経緯と課題についても説明があり、了承された。

2. 2012 年度決算案及び監査報告について

大坂事務局長より説明があり、その内容と監査報告については了承された。

3. 2013 年度予算案について

2012 年度決算に併せて、2013 年度予算案について提案がなされ、原案通り承認された。なお、学会誌掲載の会計報告(案)、予算(案)に誤りがあり、今年度末のニューズレターで修正し、掲載することが了承された。

II 報告事項

1. 会費徴収状況

大坂事務局長から、2013 年 9 月 19 日現在の会費納入状況について以下の通り、報告があった。

2013 年度 未納者数	2012 年度 未納者数
一般会員 155	一般会員 146
特別会員 4	特別会員 7
学生会員 9	学生会員 7
計 168	計 160

2. 会員異動について

大坂事務局長から、昨年度より 2013 年 9 月 19 日までの会員異動について以下の表のとおり、報告された。

会員数の推移

	2013 年 9 月 19 日現在	2012 年 9 月末
正会員	318	328
特別会員	20	22
学生会員	18	17
計	356	367

入会者 10 名、退会者 21 名

新入会員は下記の通り。

(会員種別)	(氏名)	(所属)
正会員	大阿久博	武蔵野大学
正会員	飯嶋香織	神戸山手大学
正会員	小野智一	東京福祉大学
正会員	久保田哲也	千葉県立浦安南高等学校
正会員	井坂友紀	茨城工業高等専門学校
正会員	齋藤哲哉	日本大学経済学部
正会員	岩下伸朗	福岡女学院大学
正会員	尾鷲瑞穂	独立行政法人国立環境研究所
学生会員	田井勝	駒澤大学大学院 経済学研究科博士課程
正会員	佐々木優理	東京都立総合芸術高校

3. 来年度の学会誌編集体制について

今年度の学会誌編集担当理事を、猪瀬理事、高橋理事、田中理事、八木理事とすることが報告された。

4. 第 30 回全国大会について

立命館大学で行うことが確認された。日時、場所の詳細は追ってニューズレター等で報告される予定。

5. 春季研究集会について

山根理事より、2014 年 3 月 28 日(金)に三重大学で行うことが確認された。

理事会議事録

日時 2013 年 9 月 29 日(日)12 時 10 分～13 時 15 分
場所 滋賀大学教育学部 2F 会議室

出席 大坂洋 猪瀬武則 岩田年浩 角田修一 加納正雄 田中淳 中里弘穂 中谷武雄
新里泰孝 橋本勝 藤岡惇 松本朗 水野勝之 八木尚志 山根栄次(15 名)

委任状: 5 通

*議事に先立ち、議長として中谷武雄氏を選び、議事録作成担当に角田修一氏を指名した。

I 審議事項

1. 次期会長選出

水野勝之氏(明治大学)が次期会長に選出された。任期は 1 年間。

2. 2013 年度理事の役職分担

補充理事(学会誌担当)として井草剛氏(明治大学地域活性システム研究所)が選出された。

3. 第 30 回全国大会(会場:立命館大学)

大会担当理事として、角田理事、藤岡理事、松本理事が、この中から、大会実行委員長として角田理事、大会事務局長として松本理事が選出された。

記念大会のテーマその他の内容については、次回理事事に提案することを了承した。

4. 30周年記念事業

あんびるえつこ、岩田年浩、藤岡惇、森岡孝二の4人による30周年事業企画委員会の設置が確認された。

(追記) 2012年度総会時点からの退会者
柳田義章、前田宗誉、山田良治、宮崎博臣、佐藤卓利、北村洋基、三野村暢禧、西田達昭、松尾桂三、

II 報告事項

とくになし。

III その他

1. 日本学術会議の経済学分野の参照基準について若干の意見交換を行った

出口勝志、兼田繁、松村直樹、吉田修、伊藤薫、井汲明夫、高野邦彦、Robert Gee、森義隆、川瀬光義、宮川彰

《会費納入のお願い》

2013年度の年会費をまだお支払い頂いていない方、過去に未納のある方につきましては、納入のご依頼をお送りさせて頂いております。郵便局(ゆうちょ銀行)にて下記の振替口座に年会費(学生等の条件により金額は異なります)をお振込み下さい。

口座番号：00920-3-252875

口座名義：経済教育学会

年会費：正会員 5,000 円、学生会員(大学院生を含む) 2,000 円、65歳以上の会員 2,500 円

・経済教育学会は日本学術会議協力学術研究団体(詳細は<http://www.sej.go.jp/ja/group/dantai/index.html>)です。学会費は所属先の校費にてお支払い頂ける場合があります。

<編集後記>

大変遅くなりました。ニュース・レター第20号をお送りします。秘密保護法案が強行採決され、強権的な現政権の姿が見えてきたようです。時を同じくして、経済学の参照基準なるものが、日本学術会議に提起され議論されています。なにかの枠組みにはめ込んで物事進めようとする風潮が教育研究分野にも入り込んできているようです。世界の潮流は、多様な価値観の下に多面的な方法論で本質に迫ることを経済学に求めてきているように見えます。こうした認識を持つ私にとっては、学術会議の今の動向は極めて遺憾な事態だと言わざるを得ません。

(朗)

経済教育学会 ニュースレター 第20号

(2013年12月20日発行)

発行人：経済教育学会 会長 水野勝之

編集人：あんびるえつこ 松本朗

発行所：富山大学経済学部 大坂洋研究室(経済教育学会事務局)
〒930-8555 富山市五福3190番地

発送元：株式会社サラト(経済教育学会担当 大川)
〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
FAX:079-284-0904

印刷所：株式会社 エムディーエス
〒162-0811 東京都新宿区水道町2-13 江戸川橋H0ビル
Tel:03-5261-9021
<http://www.mds-pro.com/>
E-Mail: office@ecoedu.jp

